

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1472000981		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ平塚南原		
所在地	平塚市南原3-8-17-6 (電話) 0463-37-4355		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成19年5月21日	評価確定日	平成19年6月13日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	8 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 11.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円
敷金	有() 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (900,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会平塚病院、わかもとクリニック、吉田歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

① 環境	・平塚市郊外の閑静な住宅地にあり、近くに公園もある。 ・地域在住の家主の協力もあり、自治会の一員として地域に溶け込んで相互に協力し合っている。
② 介護	・職員の退職が殆どなく、安定した介護が行われている。 ・入居者中心の姿勢が徹底している。 ・管理者が率先して介護にあたり、職員の和・チームワークが取れている。
③ 教育	・研修を重視し、全員積極的に外部研修に参加し、報告書に纏めている。
④ その他	・運営推進会議は定期的開催され、円滑に運営されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	新方式による評価は初めてなので、前回評価実績はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	・自己評価票は職員全員で取り組んでいる。 ・自己評価を日々行っていることの意義を自覚する場として活用している。 ・必要に応じて改善計画シートを作り、更なるサービス向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	・運営推進会議を2~3月に1回開いている。議事録は職員にも回覧している。 ・運営推進会議委員は地域代表、家族、行政の担当者からなり、出席率も高く、グループホームの総合的な意見交換の場となっている。 ・具体的には、管理者がホームの実状を説明し、推進委員からの要望や助言を得ている。 ・ターミナルケアなど今後の課題についても話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	・殆どの家族が週1回以上気楽に訪れている。 ・家族とは面談の機会も多く何でも話し合える関係にある。施設からは利用者の情報を提供し、家族からの要望も積極的に聴取している。 ・収集した情報を迅速に処理して運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	・自治会に加入し、自治会のイベントや敬老会に参加している。 ・地域の方に施設を開放し、行事への参加を呼びかけている。職員向けの健康講座を地域400世帯にチラシで呼びかけたところ7名の参加があった。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・入居者の立場に立った事業所独自の理念を掲げ、毎日の引継ぎのミーティング時や会議で徹底している。 ・大家との地縁で地域との関係は良く、グループホームの設立も順調だった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者、フロア長が率先して行動し、利用者の立場に立った介護のあり方を徹底している。 ・管理者と職員は自由に意見交換できる人間関係をつくり、情報の共有、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・事業所は自治会の一員として自治会行事(夏祭りその他)に参加するなど積極的に交流を図り、入居者に楽しんでもらっている。 ・散歩での積極的な挨拶、地元を優先する買い物など、日常の行動で地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価票を職員が分担し、職員の意見を聞いて作成し、それを代表者がまとめることで評価の意義を共有し、日々の行動の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は2~3ヶ月に1度開催し、当グループホームの実状、要望助言事項及び業界全体の課題などについて話し合っている。 ・毎回ほぼ全メンバーが出席し議事録もあり、職員には内容を徹底するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政当局とは郵送で済む書類も持参するようにして、情報交換の機会を多くしている。 ・ 市の職員が入居者と面談する介護相談の場を積極的に受入れ、地域の人へのサービスの向上に取り組んでいる。 ・ 市主催の研修会に積極的に参加している。 		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の請求連絡時に個別に状況を報告している。 ・ 家族の来所時に面談して状況報告し要望を聞いている。 ・ 年2回家族会を開催している。(好評で出席率が高い) 		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部及び外部機関の苦情相談窓口の明示と目安箱の設置で苦情収集の姿勢を明確にしている。 ・ 面談時に気軽に話せる関係を築き意見の収集に努めている。 ・ マニュアルにより迅速に処理される仕組みがある。 		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員はパートも含め退職は極めて少なく定着している。 ・ 内部移動で他地区の施設に移動するケースがあるが運営に影響するほど多くはない。 		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研修への参加は業務として認定し、積極的に参加を奨励している。 ・ 職員別に研修記録が整理され、職員が共有できる仕組みになっている。 ・ 管理者が率先して現場で業務の中で指導している。 		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平塚市グループホーム連絡会を重視し、同業者交流の場としている。 ・ 同業者間で職員交換研修を実施しサービスの質の向上に努めている。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・見学、仮入居で安心感を持ってから入居してもらっている。 ・アセスメントで本人、家族の希望、これまでの生活歴、趣味などを十分把握し対応している。 ・入居者はのびのびと満足して生活していた。 (昼食時の観察、懇談)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・調理、掃除、園芸、など人生の先輩としてまた家族として教えてもらう姿勢で入居者に対応している。 ・入居者も「役にたつ」喜びを感じながら生活していた。(昼食時の観察、懇談)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・外食時、利用者どこで、何を食べたいかを聞いて、希望に添う努力をしている。 ・本人、家族の話をよく聞き、日々の生活に反映している。 ・入浴も好きなどき入れるように入居者の意向を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・長・短期のサービス計画書及び週間サービス計画表を個人別に作成し、職員間で情報の共有化を図って徹底している。 ・本人、家族との話し合いの機会は多く、十分希望を聞いて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は毎月見直し、3ヶ月ごとに作成し更新している。 ・入院など状況が特別変化したときはその都度本人・家族の意見を聞き、さらに職員の意見も入れ新しい計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・退院後など家族の希望に応じて家族が宿泊できるようにしている。 ・リハビリの必要な入居者には、併設のディサービスのリハビリに参加してもらったり、入浴が困難な入居者については、ディサービスの機械浴で対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協定書を交わしたホームドクター(内科、歯科)がいる。毎月第2火曜日が往診日となっている。 ・希望により従来のかかりつけ医を受診する方もいる。基本的には家族に受診対応をお願いしているが、家族が対応できないときは職員が付き添うこともある。その場合利用者について、家族と同じ情報を持つようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・医療的な処置が必要な方、医師よりホームでの生活は困難と言われた方は退所としている。 ・入所時にはターミナルケアについて施設の方針を説明し、家族と意見交換をしている。 ・ターミナルケアを要する場合は、マニュアルに基づいて、退所の支援を行っている。	○	ターミナルケアのあり方、考え方など、グループホームとして何処まで関われるかの試案もあるが、目下社内全事業所で検討中である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・プライバシーの尊重を契約書に明記し、施設内にも掲示している。 ・職員には日頃より定例会議、申し送りミーティングで、利用者の尊厳、その人らしさの尊重を徹底している。 ・利用者に接する態度の中に不適切さは見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・アセスメント時に生育歴、趣味などの情報収集に努めている。 ・入所後はできること、できないことを書き出し、利用者の変化に対応している。日々のミーティングで、入居者が主体であることを確認し、利用者の希望を否定せず、受け入れるように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居者に対し食事に関するアンケートを毎年実施し、希望を取り入れるようにしている。 ・食事作り、配膳、下膳、食器洗いなど、色々な場面で利用者が関わる姿が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・午前10時半には風呂が沸いており、好きな時間、好きな温度で入浴できるようになっている。 ・最低1週間に2回は入浴するようにしているが、毎日の方もいる。 ・入浴を拒否する利用者は、気に入ったヘルパーが誘導したり、沐浴剤の利用、防水のCDプレイヤーで好きな曲を流すなどの工夫をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・できること、できないことを把握して、掃除、畑仕事など利用者の能力を発揮できる場を作るようにしている。 ・毎月ボランティアによる絵手紙や習字教室、また音楽療法、カラオケも行っている。 ・季節ごとに、節分の豆まき、運動会などの行事を行っている。またその写真を施設内に張り出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・利用者の体調や、天候に合わせ、近くのスーパーへ買い物に行ったり、近所を散歩したりしている。 ・玄関から外へは車椅子で出やすいように緩やかなスロープになっている。 ・月に1回、日中空いているディサービスの車を利用して、ユニットごとに全員で食事に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・近くに国道や川があるので玄関はセンサー制御している。 ・1階のフロアーは鍵を掛けていない。2階は重度の方が多く、家族の要望もあって、階段で転ぶことを予防するために、鍵をかけている。 ・鍵掛けについては家族の了解を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・防災マニュアルが完備している。年2回職員、入居者全員による避難訓練を行っている。(写真で確認) ・防災担当の職員により、定期的な備品の点検をしている。非常食や、水も準備している。玄関の下駄箱の上には、ヘルメット、防災リュックが置かれていた。	○	施設としては、地域との協力を得られるようになってきているが、更に一步踏み込んで自治会との協定を結びたいと考えている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、食事・水分の摂取量を記録し、月に1回体重をチェックしている。職員が家庭料理を作ると同じように栄養バランスを考え食材や献立に工夫をし、年1回栄養士の指導を受けている。 ・ 利用者の状態に応じて、食事にとろみをつけたり、刻み食にしている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居間、トイレ、浴室は車椅子でも対応できるよう広く、また明るく保たれており清潔感があつた。異臭は全く感じられなかった。 ・ テーブルには花、壁には行事の写真、利用者の作品が飾られており、暖かい雰囲気がある。 ・ 居間の一部に和室があり、家庭的な空間を作っている。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居室には、大きな仏壇を置いていたり、窓辺に鉢植えの花を飾ったり、部屋に畳を敷いたり、それぞれが思い思いの品を持ち込んでいた。 ・ 各部屋には、湿温度計、冷暖房器具が備え付けてあり、居室ごとの温度管理ができるようになっていた。 		